



血液凝固第Ⅷ因子およびインヒビターに関する生化学的検討

野上 恵嗣

Keiji Nogami

小児科学／教授

■キーワード 第Ⅷ因子、血友病

シーズ概要

血液凝固第Ⅷ因子は血友病 A の患者さんで先天的に欠乏する因子で生体における止血において重要な役割を果たしています。そのため、欠乏状態では重篤な出血症状を呈する一方、過剰状態では血栓症を引き起こすリスクファクターになることも知られるようになってきました。我々は第Ⅷ因子の生化学的な解析を加えることで、その凝固能をコントロールし、製剤開発など臨床の場に役立てたいと考えています。

また、血友病患者さんの 20-30% に発生するインヒビターは血友病治療にとって現在も未解決の重大な問題です。われわれは第Ⅷ因子に対するインヒビターについても免疫生化学的解析を進めています。インヒビターのすでに発生した患者さんに対する止血治療や免疫治療はもちろん、これから治療を始める患者さんにとってインヒビターの発生頻度を抑えることが可能な改変第Ⅷ因子の開発などを目指しています。

研究成果の応用可能性

第Ⅷ因子の機能解析から既存の治療製剤を上回る利便性を持った製剤の開発やインヒビターの解析からその免疫治療の開発などが応用可能と考えています。

Appeal Point

アピールポイント

今まで企業等と交渉した実績はありませんが、血友病治療に関連する製薬企業との連携は可能ではないかと考えています。

関連文献／特許

1. BMJ Open. 2022 Jun 13;12(6):e059667.
2. Haemophilia. 2022 Jun 11. doi:10.1111/hae.14602